

震災の記憶・教訓の伝承に向けた連携・ネットワークについて

【第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議資料】

(1) 震災遺構・伝承施設のネットワーク化



○目的

震災遺構・伝承施設単体では、求心力が弱いですが、沿岸全域の資源をネットワーク化し、連携・役割分担することで、来訪者のニーズに合わせたオーダーメイドな周遊パッケージを可能とし、多くの来訪者を呼び込むとともに、リピーターを創造する。

○周遊ネットワークの機能

- ・施設の相互紹介
- ・ネットワークのゲートウェイ機能
- ・情報のワンストップ化（情報の受発信・相互紹介等）
- ・受入体制の構築（コーディネート・パッケージとオーダーメイド）
- ・特色を活かした周遊のゾーニングと役割分担

○課題

- ・民間施設との連携
- ・岩手県・福島県との連携方策
- ・施設の維持管理
- ・コンテンツの更新及び差別化

(2)アーカイブの連携・ネットワーク化



○目的

東日本大震災からの復旧・復興のみならず、震災を経験した人の経験や想いに関する記録及び知見を収集し、アーカイブ化することで、県内はもとより、国内外に情報発信することにより、東日本大震災と同じ犠牲と混乱を繰り返さないようにする。

○アーカイブネットワークの機能

- ・情報の収集・アーカイブ化
- ・アーカイブの連携・共有化
- ・コーディネート
- ・情報のワンストップ化
- ・東日本大震災の記録・情報のプラットフォーム

○課題

- ・県民の経験談の掘り起こし
- ・アーカイブのコーディネート
- ・岩手県・福島県との連携方策
- ・利用者のニーズの把握・マッチング
- ・コンテンツの更新

(3) 取組主体の連携・ネットワーク化



○目的

既に伝承に取り組んでいる多様な主体が連携することにより、地域の方々が防災・減災への関心と理解を深め、それぞれの取組及び知見を普及啓発するとともに、国内外に情報発信を続けていくことで、防災・減災の地域文化の担い手を育成する。

○連携ネットワークの機能

- ・取組主体間の連携
- ・担い手確保・育成
- ・情報のワンストップ化(情報の受発信・相互紹介等)
- ・利用者のニーズへの対応

○課題

- ・県民への認知度向上と取組参画
- ・岩手県・福島県との連携方策
- ・来訪者のニーズとのマッチング
- ・担い手育成コンテンツの作成支援